

国語

低学年における確かに読む力を育成する読書単元の開発 -昔話紹介ブックを作る学習を通して-

野田市立みずき小学校教諭 ^{まつぎき} 松崎 ^{わこ} 倭子

2年生国語科において、物語教材として優れた特性がある昔話の多読により読書意欲を高めながら、昔話の紹介ブックを作成する言語活動をとおして、確かに読む力を育成することができた。扱った教材は、教科書の「かさこじぞう」と児童が選んだ「お気に入りの本」の二つである。児童は、特設した読書コーナーを活用して昔話を読み進めた。並行して、紹介ブック作成のために、あらすじ、人物紹介、すきなところの紹介などを、創意工夫をしながらワークシートにまとめる過程で、自分なりの考えに自信をもてるようになり、読み手を意識して書き表すこともできるようになった。今後は、校内研究やその他の研修会において、言語活動のあり方を踏まえた読書単元の必要性を説明していきたい。

国語

どの教師でも展開しやすく、児童の理解・深化の過程を明らかにした授業モデルの開発 -低学年における硬筆書写の能力向上へつなげるために-

印西市立原小学校教諭（前成田市立加良部小学校教諭） ^{しまの} 嶋野 ^{まり} 真里

学習指導要領の改訂に伴い、小学校低学年における運筆指導のための学習用具として「水書用筆等」が例示された。そのため、学校現場では、低学年において水書用筆を取り入れた実践を積み上げていく必要がある。そこで、どの教師でも展開しやすいことと思考活動の充実に重点を置き、水書用筆を使用した授業モデルを開発した。その授業モデルを基に授業を展開した教師の変容を分析した結果、提案した授業モデルが経験年数に関係なく、どの教師でも展開しやすい授業であることが明らかとなった。

なお、作成した動画教材やワークシートなどは、右のQRコードから誰でもダウンロードできるので、授業で活用していただけたら幸いである。



算数

自ら問いを見いだし解決していく「関数の考え」の育成 -問題提示と発問、まとめ方の工夫を通して-

香取市立佐原小学校教諭（前同市立東大戸小学校教諭） ^{えんじょうじ} 円城寺 さやか

予測困難な社会において、子供たちが社会に主体的に関わり、学んだことを人生や社会の在り方と結び付けて、問題解決することは重要である。しかしながら、児童にとって、問題解決をしていくことは、算数科の中でのこととして捉えていることが多い。これらを踏まえて、本研究では第5学年「単位量あたりの大きさ」、「変わり方調べ」の単元で、変わり方を調べるステップⅠ～Ⅳに基づいて、問いを自分事として捉えさせ、「関数の考え」を促すような問題提示や発問をし、まとめではどのようにして解決したかを振り返らせた。今後は、この「関数の考え」を活用して、「自分で問題を解決してみたい。」「発展させてみたい。」と思えるような児童を育てることにつなげていきたい。

理科

イオンの学習における深い学びを生み出す授業づくり -「化学変化と電池」の学習を通して-

八千代市立東高津中学校教諭（前同市立村上中学校教諭） 武藤 諒^{むとう りょう}

全国学力・学習状況調査等の結果によると、千葉県の中学生は化学的領域の問題を苦手にしており、その中でもイオンの学習は特に理解することが難しいと指摘されている。また、主体的・対話的で深い学びを実現するには、生徒の興味関心を高め、他者に説明する授業を行うことが重要だと考えた。そこで、「化学変化と電池」の学習で、日常生活と関連付けて疑問がもてる導入、生徒同士が考えを説明し合う活動、学んだ知識を活用する場面など深い学びの実現を目指した授業を立案し、実践した。検証を行った結果、質問紙、確認問題、レポートの記述からイオンの学習で深い学びが実現したことを確かめることができた。今後、この成果を研究報告会等で積極的に紹介し、授業づくりに生かしていく。

体育

陸上運動における技能向上につながる対話型学習の在り方 -子供とつくるコミュニケーションデザインマップの活用を通して-

睦沢町立睦沢小学校教諭（前茂原市立五郷小学校教諭） 佐藤 章雄^{さとう あきお}

これまで児童同士の対話については、全ての児童が双方向の対話をしているとは言い難く、よりよい対話の質も曖昧なままであった。この「見えない対話の質」を見える化させたいと考え、第5学年の短距離走・リレーの学習において、単元最初に「伝える力」と「聴く力」について、児童と共に具体的な姿を考えて評価基準を作成した。また、それを活用して児童相互で評価を行ったり、成長や実態に応じて修正したりして評価基準をデザインしていった。その結果、課題を見出したり解決したり、よりよい解決方法を導いたりする「対話力」が身に付き、一人一人の技能向上にも効果があった。このことから、子供たちが挑戦と振り返りを繰り返し行うことができるCDM（コミュニケーションデザインマップ）を他教科でも活用していきたい。

道徳

自己の生き方についての考えを深める道徳学習プログラム -ナラティブなキャリア・パスポートの活用を通して-

八千代市立みどりが丘小学校教諭 前田 彩^{まえだ あや}

道徳科で自己の生き方についての考えを深め、自己実現につなげるものとしてキャリアパスポートを活用することをねらい、小学5年生を対象に道徳科とキャリア教育とを連携させた道徳学習プログラムを開発した。またプログラムでの学びや体験を物語のようにつなげて振り返るナラティブなキャリア・パスポートとして「すごろくキャリア・シート」を開発し、活用した。その結果、児童一人一人が、特徴やよさを大切にしながら自分なりの目標をもつことができ、自尊感情の高まりも見られた。今後は、道徳科と他の教科領域とを関連させることのよさについて地域の研修会などで報告するとともに、教科横断的な別葉の作成や、キャリア・パスポートの有効な活用方法について追究していきたい。

道徳

多面的・多角的に考え、よりよい自己決定へつなぐ道徳科授業 -問題解決的な学習にプログラミング的思考の要素を取り入れて-

旭市立干潟小学校教諭 やまざき 山崎 ともこ 智子

.....

これからの予測困難な時代を生きるために、道徳的な問題を主体的に捉え判断する力の育成が必要である。そこで、小学5年生を対象に道徳科においてプログラミング的思考の要素を取り入れた問題解決的な学習を行った。その結果、視点を変えた思考、先を予測した推論、繰り返しの吟味をすることで多面的・多角的に考え、自分なりの自己決定ができるようになった。このことから、プログラミング的思考の要素を取り入れた学習は、思考スキルを向上させ主体的に問題解決に取り組めることが明らかになった。また、自己決定の場の設定や認め合う環境づくりを通し自分の考えに対する自信へとつながった。今後、本研究での指導方法を研修会等で紹介し多面的・多角的に考える学習を推進していきたい。

現代的教育課題

小学校算数科「速さ」の理解を深めるプログラミング教育 -Scratchの活用を通して-

銚子市立春日小学校教諭（前同市立双葉小学校教諭） すみ 角 しょうたろう 翔太郎

.....

「速さ」の学習は、公式に頼ってしまいがちではないだろうか。2020年度の学習指導要領の改定により、プログラミング教育が必修化されたことを受けて、児童の「速さ」に関する理解を深めるためにプログラミングツールScratchを使用して「速さ」の学習に関する教材を開発した。それを用いて、児童の「速さ」に関する理解が深まるかどうか、検証授業を行った。検証授業の結果から、開発教材の有効性を確認することができた。また、イメージしにくい「速さ」の学習を、開発教材を使用して可視化したこと、「速さ」の学習を活かしながらプログラムを考えたことなどにより、児童の「速さ」に関する理解の深まりにつなげることができた。

発達障害

通常の学級に在籍する支援を要する児童への「気付き」と早期支援について -支援内容検討ガイドの作成と評価-

市原市立菊間小学校教諭（前同市立辰巳台西小学校教諭） かがみ 鏡 よしゆき 良幸

.....

近年、小学校では「通常の学級に在籍する支援を要する児童」が増加傾向にある。発達障害は特性に加え、心理的な側面等、原因が多岐にわたっており、支援を考える難しさがある。本研究では、小学校1～3学年（学齢期前半）に支援を充実させるための「支援内容検討ガイド」を作成した。本ガイドは通常の学級の担任が実態把握及び必要に応じた支援の手掛かりを選ぶ「支援内容検討シート」と校内支援の流れ等を示す「支援内容検討ガイド活用の手引」で構成される。検証において、アンケートや実践からガイドの有効性が示された。今後はガイドの活用を広め、改訂を行っていく。児童がもてる力を発揮して自分らしく学校生活を送るための一助としたい。

特別支援教育課題

知的障害教育におけるICT活用 -見立てを重視した支援ガイド作成を通して-

県立東金特別支援学校教諭 おしづか ゆうし 押塚 雄史

GIGA スクール構想における知的障害教育でのICT活用に焦点を当て、児童生徒にとってICTをどのように活用することが適切であるのか正しく見立てることができるように「支援ガイド」を作成した。児童生徒にとってICT活用をする上での課題をアセスメントする「支援ガイド」について、実践及び検証を行い、その有効性ととも児童生徒が効果的にICTを活用し、学習に活かすための視点を明らかにすることができた。

今後も、チェック項目について学校や日常の中でICTを活用するために分析及び改善を行っていきたい。教員が「支援ガイド」を活用することにより、児童生徒を適切に見立て、ICTを効果的に活用する視点について、さらに情報を発信していきたい。

企業等派遣

企業研修を通して変化への対応力や組織力を高める方策を学ぶ -特別支援学校のキャリア教育の充実を目指して-

筑波大学附属久里浜特別支援学校教諭（前県立榎の実特別支援学校教諭） くどう あすか 工藤 飛鳥

社会全体の変化を背景に私たち教員は、時代の変化に柔軟に対応し、不易と流行を意識しながら、児童生徒に必要な資質能力を、創意工夫をもって、チームで育むことが必要となってくる。株式会社ザ・マンハッタンでは料飲部と宿泊部で研修をし、コロナ禍で業務内容や対応など多くの変更を余儀なくされている現状だったが、どのような場面でも共通理解をし、迅速な対応がとられていた。初めて学校現場を外から見つめ直し、変化への対応力や組織力を高める方策を学ぶことができた。今後は働き方改革が求められる中、効果的な対話ができるようにリーダーシップを発揮し、特別支援学校のキャリア教育を充実させていきたい。「すべては子どもたちのために」という思いをより強くもち、学校現場で活かしていく。

企業等派遣

民間企業等の持つ経営手法や企業人の生き方等を学び、今後の学校教育に生かす

銚子市立銚子高等学校教諭（前県立成田北高等学校教諭） かとう みゆう 加藤 美優

今日、生徒の不登校やいじめ、学力低下、規範意識の低下が問題視される中、新学習指導要領の重点項目として、「生きる力」の理念が継承され、一層、学校教育による期待が高まっている。また、教職員の大量退職に伴い若手教員も増加し、職場の年齢構成の変化による課題も生じている。こうした課題の解決に向け、「千葉市科学館」で研修を行った。

生涯学習の場として重要な役割を担う千葉市科学館での研修を通して、生徒の興味関心を引く授業の導入方法や、ICT機器を活用した授業改善、「人が主役」であり職員・ボランティアスタッフ・社会教育団体・来館者すべての人々が活躍できるような働き方を学ぶことができた。これらの経験を、今後の学校現場に還元し、業務に邁進していく。